



さいばいニュース

Vol.120

公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会
発行所 〒238-0237
神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子
TEL 046(882)6980
FAX 046(881)2233

令和7年度 事業計画

放流効果を高める放流方法を検討

1. 基本方針 (抜粋)

今年度はマダイ、アワビ、サザエ、トコブシの種苗生産を行い、東京湾並びに相模湾への放流、漁業協同組合を始めとする水産団体への供給を行います。

魚類の種苗生産については引き続き協会の陸上施設で中間育成を実施し、経費等の削減を図り運営改善に努めていきます。

ヒラメを始め業界からの要望が高いカサゴ、メバル、マコガレイ種苗などを入手し放流供給します。種苗の放流効果を高めるため放流方法を検討していきます。

そして、当協会の活動に理解と協力が得られるよう、漁業者はもとより広く神奈川県民に対し、東京湾並びに相模湾の海洋環境の保全と水産資源を豊かに保つ必要性を訴える普及啓発活動を行います。

放流イベント等は感染防止対策を行い実施していきます。また、広報紙「栽培ニュース」やホームページを活用し協会の活動について発信していきます。

当協会の運営については、漁業経営の不振と遊漁者数の減少等から主な収入源である漁業者負担金や遊漁船業者等協力金は減少傾向にあり、大変厳しい状況が続いています。

神奈川県が計画している栽培漁業施設の再編整備計画に基づく生産施設の充実により、種苗の増産による収益の向上を図り経営改善を進めていきます。

2. 事業の内容

(1) 種苗放流事業

マダイ種苗放流事業

ア. 種苗生産尾数	(全長 20mm)	50 万尾
イ. 放流尾数	(全長 60mm)	15 万尾
ウ. 放流場所	東京湾域	5 万尾
	三浦半島西岸域	5 万尾
	西湘域	5 万尾

ヒラメ種苗放流事業

ア. 放流尾数	(全長 60mm)	6 万尾
イ. 放流場所	東京湾域	2 万尾
	三浦半島西岸域	2 万尾
	西湘域	2 万尾

種苗供給事業

事業名	種苗名(サイズ)	7年度(計画)	6年度(実績)
生産供給	アワビ (5mm)	10,000 個	10,000 個
	〃 (25mm)	150,000 個	161,300 個
	〃 (30mm)	35,000 個	34,730 個
	サザエ ※(15mm)	960,000 個	877,740 個
	トコブシ (20mm)	50,000 個	47,000 個
	トコブシ※(大型)	3,000 個	3,000 個
斡旋供給	マダイ (60mm)	200,000 尾	244,150 尾
	ヒラメ (60mm)	230,000 尾	225,192 尾
	マコガレイ (30mm)	35,000 尾	35,000 尾
	クロダイ (60mm)	15,000 尾	15,000 尾
	メバル (60mm)	40,000 尾	37,500 尾
	カサゴ (60mm)	180,000 尾	198,500 尾
	トラフグ (50mm)	10,000 尾	10,000 尾
カワハギ (50mm)	23,000 尾	28,800 尾	

※サザエは県内 300 千個を含みます。
※トコブシ(大型)は養殖用種苗



干潮時の磯で確認されたトコブシ (→3ページ)

(2) 普及啓発事業

① PR 推進事業

「栽培ニュース」(2,000部/回、年2回)を作成し県内の漁業協同組合、水産団体、遊漁団体、教育及び公共機関等へ配布し当協会の広報活動を実施します。また、ホームページから協会の活動状況を積極的に発信していきます。

② イベント推進事業

今年度は各地で開催される地域活動に参加し種苗放流の体験イベントを安全対策や感染対策を踏まえて実施をしていきます。

(3) 調査事業

マダイ遊漁標本船調査

県内遊漁船の中からマダイ遊漁を対象に標本船調査を実施します。

(4) 種苗供給事業

① 生産供給

アワビ、サザエ、トコブシ、マダイ種苗を生産し漁業協同組合をはじめとする水産団体へ供給します。従来から配布先である県外関係機関へも引き続き供給できるように取組みます。また、クロアワビ種苗の安定生産を行い県外に配布するように努めます。

② 斡旋供給

ヒラメ、カサゴ、メバル、トラフグなどの種苗を入手し漁業協同組合をはじめとする水産団体へ供給します。

ホームページリニューアル!

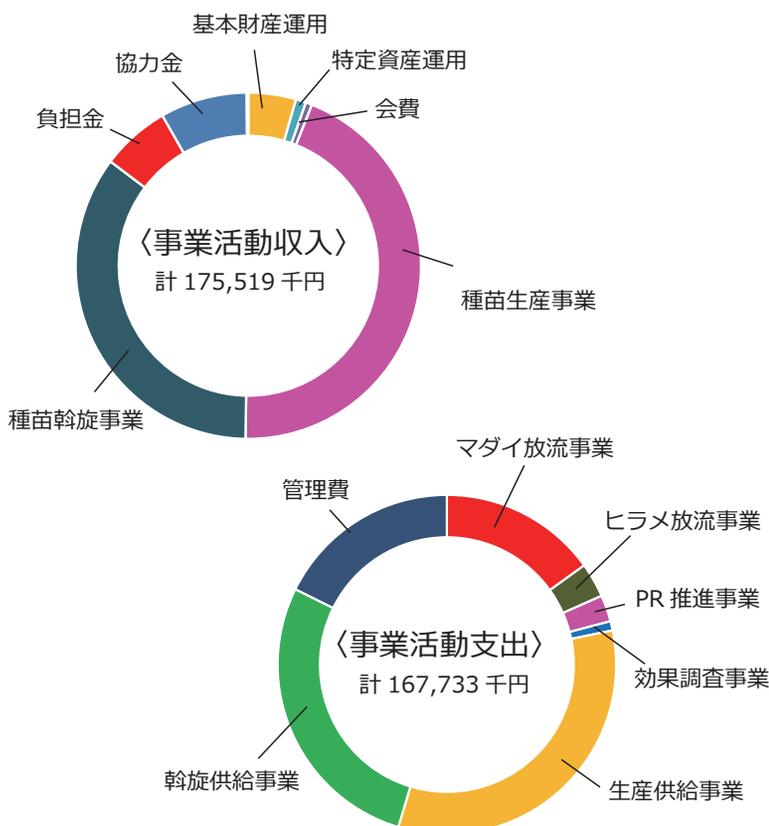
QRコード

令和7年度 予算

令和7年度予算は収入で175,519千円、支出で167,733千円と見積もっています。前年の予算と比較すると収入で6,000千円弱、支出で3,000千円ほど多くなっています。収入の増加は、県外への供給が増加したためです。

一方、減収の一因として負担金と協力金か漁業者と遊漁船が減少したためです。近年、漁業者と遊漁船が毎年2%以上減少しつづけています。

支出は、貝類の人工飼料の見直しで圧縮しました。ただ、マダイやアワビ・サザエ・トコブシを飼育する海水をくみ上げるポンプの電気料金が令和6年度には政府の補助金で大部削減されましたが、令和7年度については補助があるかないか分かりませんので、見積額の変動も予想されます。また、魚類種苗生産が終了する10月から3月まで45KWの海水揚水ポンプの稼働を停止することで支出の削減を図る予定です。



令和7年度 資金収支予算書(参考)

(単位:千円)

(単位:千円)

事業活動収入	当年度	前年度	事業活動支出	当年度	前年度
基本財産運用	7,501	7,561	マダイ放流事業	23,947	24,815
特定資産運用	1,470	1,622	ヒラメ放流事業	5,871	5,437
会費	890	1,000	PR推進事業	4,086	4,155
種苗生産事業	76,070	75,039	効果調査	1,857	1,459
種苗斡旋事業	63,011	59,380	生産供給事業	51,381	54,143
負担金	11,249	10,890	斡旋供給事業	51,023	45,618
協力金等	15,093	13,805	管理費	29,565	29,110
雑収入	235	250	計	167,733	164,737
計	175,519	169,547			



令和6年度決算報告

令和6年度の貸借対照表と正味財産増減計算書の概要を報告します。貸借対照表の資産の部は、流動資産が7,580千円、固定資産が687,618千円で、資産合計695,198千円、負債の部では流動負債が55,625千円、固定負債が20,362千円で、合計75,988千円でした。正味財産の部では指定正味財産が402,201千円、一般正味財産217,009千円で、正味財産合計が619,210千円。負債及び正味財産合計が695,198千円でした。令和5年度との増減では、特定資産が16,680千円の減でした。これは、保有する第34回神奈川県公募公債の簿価が2億円ですが、時価評価の大幅な減があったためです。負債の部では流動負債が11,748千円の減となりました。近年、アワビ種苗の大量斃死があり負債が増加することがありましたが、令和6年度はサザエ種苗が順調に供給できたため、久しぶりに負債を減らすことができ、今後ともこの状況を続けていけると期待しています。

正味財産増減の部では、経常収益の事業収益が令和5年度より14,078千円ほど増えています。これは、サザエ種苗の販売が増えたためです。経常収益の受取協力金が717千円ほど減となっています。東京湾での遊漁船がマダイ釣りからタチウオ釣りに移行している影響とみえています。

詳しい決算書は神奈川県栽培漁業協会のホームページ(<http://www.kanagawa-sfa.or.jp>)の法人概要をご覧ください。

令和6年度 貸借対照表概要

(単位:円)

科目	令和6年度	令和5年度	増減
1. 資産の部			
流動資産	7,580,164	3,708,234	3,817,930
基本財産	411,170,000	411,170,000	0
特定資産	275,740,000	292,420,000	△16,680,000
その他固定資産	708,382	775,357	△66,975
資産合計	695,198,546	708,073,591	△12,875,045
2. 負債の部			
流動負債	55,625,530	67,374,310	△11,748,780
固定負債	20,362,573	16,167,412	4,195,161
負債合計	75,988,103	83,541,722	△7,553,619
3. 正味財産の部			
指定正味財産	402,201,000	402,201,000	0
一般正味財産	217,009,443	222,330,869	△5,321,426
正味財産合計	619,210,443	624,531,869	△5,321,426
負債及び正味財産合計	695,198,546	708,073,591	△12,875,045

令和6年度 正味財産増減計算書(抜粋)

(単位:円)

科目	令和6年度	令和5年度	増減
一般正味財産増減の部			
経常収益			
基本財産運用益	7,502,738	7,502,741	△3
特定資産運用益	1,598,911	1,618,800	△19,889
受取会費	875,000	918,000	△43,000
事業収益	142,492,316	128,414,173	14,078,143
受取負担金	11,509,670	11,126,450	383,220
受取協力金	14,615,131	15,332,322	△717,191
雑収益	230,362	201,418	28,944
経常収益計	179,067,128	165,231,904	13,835,224
経常費用			
事業費	137,650,942	134,250,031	3,400,911
管理費	30,057,612	30,980,659	△923,047
経常費用計	167,708,554	165,230,690	2,477,864
評価損益等調整前当期経常増減額	11,358,574	1,214	11,357,360
基本財産評価損益等	△16,680,000	△2,540,000	△14,140,000
当期経常増減額	△5,321,426	△2,538,786	△2,782,640

pick up! 種苗放流



5月25日(日) 葉山港で ヒラメ放流



5月28日(水) 浦賀で ヒラメとサザエの放流



5月28日(水) 金田湾で ヒラメ放流



6月9日(月) 江の島で ヒラメ放流



6月9日(月) 腰越で ヒラメ放流



6月8日(土) 長井で ヒラメ放流



6月14日(土) 横浜ベイサイドで ヒラメ放流

トコブシの放流地調査

昨年、トコブシの放流効果を調べた場所へ今年も行ってきました。昨年と同じポイントで、多くのトコブシ稚貝を確認することができました。また、親貝サイズの50mmを超えるものや、放流サイズを下回る10mm前後の個体も複数見られ、自然でも繁殖していることが確認できました。

今回は、トコブシの確認だけでなく、稚貝と一緒に確認できた動物や周囲に生えている海藻などの周辺環境も記録してきたので、今後の放流場所の選定に役立てたいと思います。

今後も、地元の漁業者への聞き取りをしながら、各地区で調査していきたいと考えています。

浅い潮だまりの転石を裏返すと稚貝の姿が。



ヒラメ種苗放流時期の見直し

ヒラメの漁獲量と種苗の回収率が近年、減少しています。減少要因については明らかになっていません。この現象は全国的に起こっていて、海況の変化がその要因ではないかと疑われています。近年の水温が1.5~2℃ほど高めに推移していて、黒潮の大蛇行との関連も言われています。

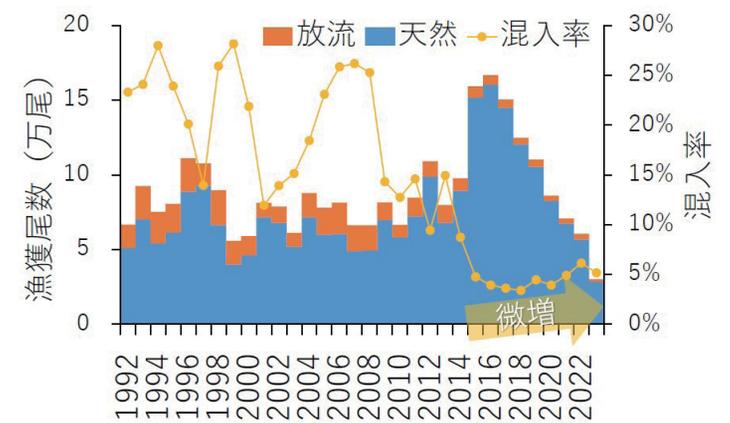
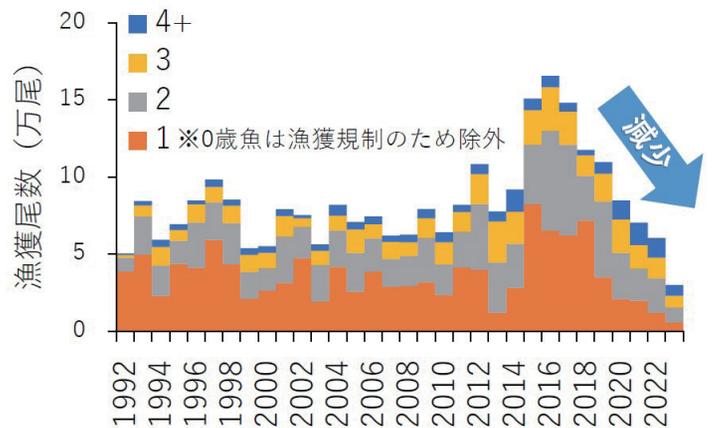
神奈川県でのヒラメ種苗放流は例年7月に行われてきました。ヒラメ種苗は、体長8cmくらいまで主にアミ類と一部はぜ類を餌としています。

アミ類は水温20℃前後と河川の河口域に多く分布しています。他県でのアミ類調査結果では発生時期が早い夏から春遅くに、水深もやや深めに変わっています。

このことから、令和7年度のヒラメ種苗放流はアミ類が発生している可能性が高い6月を中心に種苗放流を行います。放流した種苗を採捕してアミ類を摂餌しているかどうか消化管内容物を確認する調査を行います。さらに、放流後1年目、2年目の漁獲物中の放流個体混入率や回収率を見ることで、放流効果の検証を行っていく予定です。



ヒラメ種苗



ヒラメの漁獲尾数と尾数混入率

加藤大棋 (神奈川県水産技術センター)

かながわ漁協探訪 ~小田原市漁業協同組合~



小田原市漁業協同組合は、昔から相模湾西部の漁業の中心地として栄えてきた小田原市にあり、現在でも定置網漁業が全国的に有名です。漁場が急深なため、多種多様な魚種が水揚げされます。組合が運営している定置網のほか、個人経営の定置網や近隣漁場からも水揚げがあるため、買い付けに来る業者も数百人と多く、朝の魚市場はとてほろろと活気があります。

一方、所属する漁業者は高齢化が進み、組合員は減少の一途を辿っています。比例するように獲れる魚も減っていて、最近では漁業よりも遊漁(釣船)の方が多くなってきているようです。



魚市場で取引されていた小田原を代表する魚・アジ

◇官民一体の藻場再生◇

魚が減っている原因のひとつに磯焼けがあると考え、水産庁が行っている「水産多面的機能発揮対策」から支援を受けて、市や地元のダイバー等と共同で「小田原藻場再生活動組織」を立ち上げ、様々な活動を行っています。5カ年計画の3年目が終わった段階で、藻場再生の可能性が見えはじめてきているようです。

魚が減っている現状をただ悲観するのではなく、意欲的に対策に取り組んでいます。

小田原藻場再生活動組織 HP →



☆夏が旬の魚☆

小田原といえばアジが有名ですが、夏はソウダガツオも多く水揚げされます。釣れたて新鮮なカツオは刺身が美味しいですが、それ以外にも焼いたり煮たり、自家製カツオ節にチャレンジするのも良いかもしれません。

◆港の朝市◆

会場：
漁港の駅 TOTOCO 小田原
(小田原市早川1番地28)

毎月第2土曜日
鮮魚販売：午前9時～
鮮魚以外：午前8時頃～10時頃



◎ 小田原みなとまつり 2025年8月3日(日)開催 ◎

「海と人とのふれあいの場」をテーマに、小田原漁港で毎年行われているイベント。朝どれ地魚の即売や干物づくり体験、漁船での釣り体験、さわる水族館など、催し物が盛りだくさんで、毎年多くの来場者が訪れています。入場無料(参加イベントによって有料)。毎年8月第一日曜日に開催。

問合せ先：小田原市 水産海浜課 水産振興係 TEL0465-22-9227

アイゴを食べて海藻(草)を守りましょう

皆さんアイゴをご存じですか。アイゴはカジメ・アラメ、ホンダワラ類の海藻やアマモを食べて磯焼けを起こす魚です。磯焼けになると沿岸の魚介類の餌がなくなり、特にアワビの漁獲量が減少します。また、アマモは魚やアオリイカなどの産卵場として、大きな魚などから隠れ場となって食害を防ぐだけでなく、葉上のゴカイ類や小型の甲殻類が稚魚の餌となって、水産魚類のゆりかごとなっています。

アイゴは、九州や沖縄では市場に並ぶ食用魚ですが、関東では食べる習慣がありません。背中にある毒の棘に刺されると痛く、内臓や血液に臭みがあり、敬遠されています。しかし、上手に棘と内臓を新鮮なうちに除去し下処理をすることで、食用となります。

現在、磯焼けのカジメ場やアマモを回復する努力が漁業者や市民団体で行われていますが、移植した葉体がアイゴに食べられてしまっています。これは、海の中にアイゴの数が多数いて、カジメやアマモの成長と回復を阻んでいるからです。

アイゴを減らすためには人が食べて、数を減らすことが一番の方策です。食べることによって魚価があり、漁業者がアイゴを漁獲して、流通、加工、冷凍保存、消費者の流れを作ればアイゴが海の中から減って海藻草が増えることが期待されます。神奈川でこの流れを作りませんか。



あいおいニッセイ同和損保から寄付金

寄付型自販機も設置店拡大中



京野部長と当協会専務理事

あいおいニッセイ同和損保が地域への社会貢献の取り組みの一環として運営されている「MS & AD ゆにぞんスマイルクラブ」からご寄付いただき、地域責任者である神奈川自動車営業部の京野部長と事業担当者が来所されて贈呈式を行いました。



現在、寄付型自動販売機をサントリービバレッジ、キリンビバレッジ、ダイドードリンコの3社に設置いただいています。県内33ヵ所に設置されており、利用者が1本買うごとに売り上げの一部を寄付いただいています。新たな設置場所も随時募集中です。(TEL: 046-882-6980)

編集後記

2017年から続いていた黒潮大蛇行が終息の兆しを見せている、と気象庁から発表されました。漁業において、温かい海水を運んでくる黒潮の動きは目が離せないことと思います。磯焼けはどうなるのか、赤潮発生率は下がるのか、台風は、、、と気になることが沢山できます。梅雨と同時に猛暑がやってきて、この夏も暑くなりそうです。海の中でも上でも、暑さは容赦なくやってくるでしょう。どうか皆さん無理なく事故なく、過ごされますように。そして半年後、黒潮がどうなっているのか、海中に目を凝らしていようと思います。

